

晴れ間

南出謙吾

うらぶれた地方のビジネスホテル。そのロビー。減多に使われることのないテーブルが数脚。上手側はフロントへ、下手側は外へとつながっている。向かいには大きな窓があり、駐車場と、その先には低い木々。木々に挟まれるように用水が流れている。土曜日の昼下がり、普段着姿の男が二人（丸岡と小松）、テーブルをはさんで座っている。小松は外を眺めていて、丸岡は、そんな小松をじっとみている。

小松 いいところですほんと。

丸岡 いえどうも。

小松 久しぶりに来てやっぱり思うんです。なんとか中途半端な町で。

丸岡 はい？

小松 自然は豊かだけど絶景っていう訳じゃないし、雪は降るけど驚くほどじゃない。温泉街の風情っていつても中途半端に近代的。張り切って開発したんでしょうね。失策の町並みとでもいうか。

丸岡 私は好きなんですよ。

小松 私もです。

丸岡 あああそうですか。

小松、窓の外を見て。

小松 このホテルも妙な存在ですよ。温泉街に突然の中途半端なビジネスホテル。やっぱ当然ガラガラでなんでつくっちゃったんでしょうね。

丸岡 小松さん。

小松 （そつと）シングル一泊3800円ですって。助かります今回自腹なんで。

丸岡 わざわざお越しいただいてほんとありがとうございます。

小松 いずれこの町に住みたいなあって思ってる位です。

丸岡 ちよつと不便ですよ。車ないと生活できませんし。あでも車があれば、どこにでも行けますし、むしろ都会より便利かもしれません。一通りのものは揃ってますし。なのにほんと静かで。

小松 ほんとうに残念です。

丸岡 なんとかそこを。

小松 あとあれ、フロントの金魚とか、妙な格言の書いた額？ホテルのロビーというより土建屋の応接室みたいで。

丸岡、鞆から土産箱を取り出す。

丸岡 渡しそびれてまして、これ。

小松 なんですか。

丸岡 この辺じゃ、ちよつとは有名なまんじゅうです。酒饅です。おいしいですよ。

小松 もちろん知ってます。ほんつとおいしいですよこれ。

丸岡 どうぞ。

小松 え、あいやいやおかしいですよ。

丸岡 なにがですか。

小松 私がこうして訪れた側なわけなんですから。

丸岡 ままそれは。

小松 手土産持ってくるのは私のほうで、もらうのは変ですよ。

丸岡 いいじゃないですか。

小松 ああなんで持ってこなかったんだろ。

丸岡 仕事ですから持ってこなくて普通ですよ。お気になさらず、どうぞ。

小松 困ります困ります。

丸岡 そうおっしゃらずに。

小松 ほんとに。

丸岡 そんなこだわらくても。

小松 いえいえ断じて。

丸岡 そうですか。

小松 …えはい。

丸岡 すみませんなんか無理におしつけて。

小松 いえ。

丸岡、お土産を鞆に仕舞おうとする。

小松 でも困りますよね。

丸岡 はい？

小松 それ。所長が。その持って帰って家で一人で食べるにも。量が多いし。

丸岡 大丈夫です母がいますから。

小松 あっそうでした失礼。

丸岡、お土産を鞆に仕舞うのをやめ。

丸岡 えどうします。

小松 あどうしよう。

丸岡 いえならどうぞ。

小松 いやでも。

丸岡 どうぞ、どうか。

小松 そうですかね。

丸岡 そうですよ。
小松 じゃあ。
丸岡 はい、どうぞ。

丸岡、小松に土産を渡す。

小松 いやこれいつも売り切れてて。滅多に買えないんです。
丸岡 そうですよ。ここに住んでも滅多に買えないんですから。
小松 うちの子喜びますよ、大好きなんですこれ。
丸岡 それはよかった。

小松、立ち上がり。

小松 一緒に、置きに行きます？
丸岡 え、小松さんの部屋にですか。
小松 はい。
丸岡 いやダメでしょ。私泊まつてませんから。
小松 ああそうか。
丸岡 でも、置きに行くくらい。
丸岡 後でいいでしょ。
小松 はい？

小松、お土産を手を持ったまま。

丸岡 困ります。
小松 戴きますよ。
丸岡 話逸らしてばっかじゃないですか。
小松 あはい。
丸岡 わざわざ非公式に、自腹できてくださったんでしょ。なら、ちゃんと話をしましよ
うよ。

小松、隣のテーブルを見て、突然うろたえる。

丸岡 どうしたんですか。
小松 いえいえごめんなさい。
丸岡 座って、それ、こちらに置いたらどうですかね。
小松 え、あ、はい、ですね。

小松、土産箱をテーブルに置く。

丸岡 決定なんですか。

小松 決定かって言われると、まあ、何をもって決定かによりますから。

丸岡 もう変わらないんですかってことですよ。

小松 来年度の事業計画が固まり次第社内に通じられますから、それで正式に決定です。

小松、また、隣の席を気にする。

丸岡 人目が気になるなら、営業所で話しませんか。

小松 駄目ですよ。私が来たなんて万が一営業所の誰かに見られたらどうするんですか。

丸岡 誰もそこまで勘ぐりませんよ。

小松 所長だけに、相談に来たんです。

丸岡 相談ですか。

小松 微妙な時期なんでここで。

丸岡 相談ということは、営業所の閉鎖はまだ回避できるってことですよね。

小松 それはできません。

丸岡 じゃ何の相談ですか。

小松 どうやって、解雇するかです。

丸岡 …。

小松 あなたの、営業所の営業員を。あなたの部下を。どうやって解雇するかです。

丸岡 全員解雇なんですか。

小松 転勤のできる人は。別の営業所での受け入れは検討しています。もちろん所長も。

丸岡 みんないい年です。子供の学校とか親の介護とか。

小松 天秤にかかっているのは会社ですよ。

丸岡 考え直してください。

小松 来年度の利益確保の為に議論した結果です。全国の営業所の営業員を20%削減せざるを得ないということになりました。負担は平等に。どこがどうかではなく全国すべて一律です。所長のところは6人ですから20%削減となると、6×0.8で4.8人です。5人以下になりますよね。5人以下の事業所は原則廃止するのが社内の規定そういうことです。ご理解いただけますか。

丸岡 4.8名って、ほぼ5人じゃないですか。

小松 5人未満です。四捨五入とかはないですから。

丸岡 人ですよ。四捨五入ってなんですか。

小松 だから、四捨五入はとかはしないですって。

丸岡 四捨五入したらいいじゃないですか。

小松 できませんよ。人ですよ。

丸岡 ちよっと待ってくださいよ。

小松 もうこの案で融資をうけることに内諾をもらってますから。会社に何かあったら元も子もないでしょ。

丸岡 これからどうなるんですか、うちの営業所は。

小松 まず本社からの発表で全社で希望退職を募ります。営業所の廃止はまだ伝えちゃダメです。希望退職者にできるだけ多く手を挙げるように持って行っていただきたい。くれぐれも労基に駆け込まれないように。所長の人徳は買ってるんですよ。所長ならきつとできます。

丸岡 私がですか。

小松 もちろんですよ。所長の役割です。いい給料もらっているんですから。

丸岡 そんな小松さんだって。

小松 いやいやそんな所長にはかないませんよ。

丸岡 そんなことないですよ。

小松 いやいやいやいや何をおっしゃいますやらもうねえ。

丸岡 …。

小松 だから私だってこうして対象になった所長に内密にお願いに回ってるんじゃないですか。営業所を大きくするのも、営業所を小さくするのも時には無くすのも、所長であるあなたの仕事です。納得して辞めていただくよう説得できる人徳にも、会社は高い給料を払ってるんですから。

丸岡 辞めたほうがいいと言いついて聞かせろと。

小松 そうです、君ならここにいろよりもっと条件のいいところがきつとある。大切なのは親身になることですな。

丸岡 酷い話いです。

小松 私だっていまから7か所の営業所の所長に同じ話をするんですよ。

丸岡 それより閉鎖を回避する方法をもっと考えませんか。何人の生活が懸かっているって思ってるんですか。

小松 こっちは何百人の生活を背負ってるんです。あなたの知らないところで連日連夜さんざん考えました。無いです。融資を受けて会社の収支を安定させるためには、これしかないんです。

小松、隣のテーブルを見つめる。

丸岡 どうしたんですか。

小松、隣のテーブルを指さし。

小松 あれ誰ですかね。

丸岡 あれって。

小松 そこ。50位の男。

丸岡 え、どこですか。

小松 あ、やっぱそうですね。

丸岡 どなたかいらいしました？

小松、丸岡の移動を慌てて制止する。

小松 ちよつとすごいことを話していいですか。聞いてもらえませんか。

丸岡 言いますけどね。今の話よりすごい話があるんですか。なんですか。

小松 今朝私、首つり自殺を目撃したんですよ。

丸岡 どこで。

小松 立派なけやき林の公園があるじゃないですか。今朝行っただんですよ。朝っていつても5時すぎですけど。

丸岡 そんなに早くに。

小松 眠れなかったんですよ。昨日仕事終わらせて最終便の飛行機に乗って、そのままこのホテルについて、そのまま風呂に入ってビールを飲んで眠ってそのままあたと会う予定だったんですけど。上手に眠れなかった。私も初めてですからね。会社を大きくすることばかりに駆け回ってきたのが、小さくするために駆け回ることになって。もっと仕事してくださいって言って回ったのが、もう仕事をしないでくださいっていわなきゃならなくなつて。どうもストーリーが組めなくて。

丸岡 はい。

小松 朝も早いしさすがにこの時間なら誰とも会うことはないだろうって思って、ちよつと散歩しに行っただんです。いい天気でした。林の中はまだ暗かった。男の人が首をつってました。一人で風景の一部みたい。わりと距離はあったんですけどでもね、間違いないんです見たんです。でも、私がここで発見するわけにはいかない。ですよ。こんな小さな町あつという間に私が来ることバレてしまうでしょ。だから、何事もなかったように注意深く、できるだけ今までと速度を変えずに、歩幅も変えずに、すっーって歩いていきました。振り返らずそのまますーって。

丸岡 え！ほおっておいたんですか。

小松 しょうがないでしょ。でもね、その首つりの人が。どうもねえ、うちの社員じゃないかって気がして。所長のところの。

丸岡 ええ！

小松 ああこれは、ごめんなさい。わからないです。でも、たしか森尾さんていますよね。若白髪でそんなに若くはないけど。でも年の割に白髪で年の割に色白でも年の割にマツチヨでマツチヨな割に。

丸岡 森尾さんなんですか！

小松 いやいやなんとなくです。そもそも私森尾さん自体そんなに知らないですから。

丸岡、携帯で電話をかける。

小松 さっき携帯で調べたんですよ。ちゃんと昼前には無事発見されたみたいです。あよかった肩の荷が下りた。明日の朝刊にでも載るんじゃないですかね。でもまだ、誰かまではまだわかんないみたいで。

丸岡 つながりませんよ。森尾さん。

小松 そうですか。

丸岡 え、うそ。

小松 発見されたみたいですから。待ちましょ。慌てても何もできないですよ。
丸岡 いやでも。

小松 でね、もつとすごいことがあるんです。聞いてもらえますか。

丸岡 まだすごいのがあるんですか。

小松 今朝のその一件からなんですけどね。

丸岡 はい。

小松 出るんですよ。

丸岡 はい？

小松 幽霊が。その人の。森尾さんかもしれない人の。

丸岡 は？

小松 そこに。（隣のテーブルを指し）

丸岡、驚いて立ち上がり「そこ」から距離をとる。

丸岡 ふざけないでください。

小松 ふざけてませんよ。いままで幽霊なんて見たこともないし、信じたこともないです。

でも現実に出てくるんですよ。見えるんです明確にはつきりとぼんやりと。

丸岡 どっちですか。

小松 はつきりですよ。首をつつてた人と、だいたい同じスーツ、だいたい同じ顔、だいたい同じ髪の毛。確信したんです、これは幽霊だって。ほんと普通に普通の人がいるみたいにくっきりなんですけど。でもわかるんです。これは幽霊だって。でね、所長に見えてなさそうだなあって思い始めて、確信したんです。これは幽霊だって。

丸岡 何言ってるんですか。

小松 いやほんとうなんですよ。

丸岡 疲れてるんですよきつと。

小松 疲れてますよ。疲れてますけど、出なくともいいと思いません。

丸岡 いまさんから。

小松 そこに：（隣のテーブルを見て）あらいますねえ。すわっています。こっちみてます。どうですかほんつとに見えないですか。

丸岡 見えないです。

小松 見えてほしいなあ。

丸岡、携帯を手にする。

小松 朝から、いたりいなかったりしてたんですがね。いまはね、なんかずつといますね。あれ、どこかに。

丸岡 森尾さんの、ご自宅に、かけてみようかと。

小松 いいんじゃないですか。もしそうだったらどうするんですか。もしそうだったら家族全員いないでしょうけど。いやまだ知らなくているかもしれない。でもそうだとしたらそんな不幸の電話みたいなの。不吉ですよ。なんて言うんですか。

丸岡 森尾さん、つい最近コンビニでアルバイトしてることがバレたんです。
小松 それは。

丸岡 ちゃんと本社には報告してますから。

小松 ならよかった。

丸岡 昨日、面談して。副業禁止だから辞めるようにってお伝えして。

小松 はい。

丸岡 だからまさか。

小松 いやそれでっていうのはちょっとさすがにないでしょ。

丸岡 わかりましたすみませんと言っていましたけど。アルバイトするからにはそれなりの事情もあつたでしょうし。アルバイトやめさせてしまうわけですし。え本当に森尾さんなんですか。その、首吊りの人。

小松 聞いてみますか。

丸岡 何をですか。

小松 森尾さんかどうか。

丸岡 え、誰に。

小松 彼に。

丸岡 彼に。ああ彼に。

小松 見えるんですか。

丸岡 見えませんよ。

小松 聞いてみます。

丸岡 え、あ、はい。そうですね。お願いします。

小松、意を決し、満面の営業スマイルで聞いてみる。

小松 あの、誠に恐れ入りますが、森尾さん、で、いらっしゃいますかねえ。

が、返事は、ないようだ。

小松 アルバイトは、ちよつと、まづかったですよねえ。

やはり、返事は、ないようだ。

小松 無視ですね。すつごい見てますけど。問いかけには、無視ですね。

丸岡 どこまで本気なのかわかんないですよ。

小松 どこまでも本気ですよ！見えないんですか！

丸岡 見えませんって！

小松 なんて僕だけ。

丸岡 森尾さんの顔覚えてないんですか。お会いしたことありますよね。

小松 営業所に行ったときにいらっしゃったことがあろうだろうって位で。ぼんやりした記憶しか。

丸岡 思い出してくださいよ。

小松 無理ですよ。

丸岡 そんな雰囲気ですか。

小松 そんなこと言ったって。なんといつていいか。だから若白髪でそんなに若くはないけど。でも年の割に白髪で年の割に色白でも年の割にマツチヨでマツチヨな割に。

丸岡、携帯で写真を撮ってみる。

小松 無茶しますね。

丸岡、写真を見て。

丸岡 いませんよ。

丸岡、小松に見せる。

小松 いますよ。いますって。

丸岡 ええ、うそ。

小松 どうしたらわかってくれるんだろ。

丸岡 ちよつと：そうだ、描いてみてください。

小松 はい？

丸岡 その、見えてる人。

小松 なんですか。

丸岡 これに。

丸岡、鞆からノートとペンを取り出す。

小松 え、描くんですか。

丸岡 森尾さんかどうか、確かめますから。

小松 いやいやいや冗談でしょ。

丸岡 お願いします。

小松 絵心がちよつと。あいや絵心というか、あの、え、あれを描くんですか。

丸岡 見えてるんですよ。私見えないですから。わからないじゃないですか、森尾さんかどうか。

小松 いずれわかりますよ。発見されますから。

丸岡 お願いです。確認させてください。

小松 信じてくれるんですか。

丸岡 信じ始めました。

小松 ああありがとうございます。

丸岡 とにかくいったん描いてみてください。

小松 でも。

丸岡 さらつとでもいいので。判断しますから。信じますから。いるんでしょ。

小松、隣の席をじっと見て。大きくうなづく。

小松 ほんとに、ここ離れなくて下さいね。

丸岡 もちろん。

小松、恐る恐る描き始める。

小松 まさかねこの年になって幽霊を書くなんて。なんか、霊能力者みたいですよ。

丸岡 いや、もう、そうでしょ。

小松 それですね、営業所の廃止の件なんです。

丸岡 はい？

小松 退職金の割り増しもね、一年分位は考えてまして。

丸岡 それじゃさすがに。希望者でてこないんじや。

小松 だからそこでしょあなたの出番。それでそれぞれの人生設計を冷静に考えてあげて、退職したほうが得なんだっていう道筋を立ててあげないと。

丸岡 この田舎町でただけ仕事がないかご存じでしょ。

小松 目的はなんですか。希望退職にのっけてもらうことですよ。

丸岡 いやいや、営業員の生活でしょ。

小松 だから、そういうことを言っていると、守れるものも守れなくなるんです。大切なのは事業計画を進めて融資を受けて会社を立て直すことで、それで沢山の従業員の生活が守れるんです。騙すんじゃくて、こっちが得だって道筋を示して。ごめんなさい。

丸岡 なんです。

小松 今、あの人、怒った顔したみたいな気がして。

丸岡 そりゃ怒りますよ。そんな考え方じや。

小松 信じてくれてるんですね。

丸岡 はい。

小松 ほんとありがとうございます。

丸岡 いえどうも。

小松 うちの営業員なんてほんと安月給なんですから、退職金を上乗せしてもらって転職した方が、長い目で見て絶対得なんですって。

丸岡 だから仕事ないです。
小松 なんでそんな否定的なことばかり言うんですか。あなたの役目でしょ。逃れられない環境があるんですから、どうするかを考えなきゃ。ほんと無責任だな。自分だけは汚れたくないんですか。僕こんなに汚れてついには幽霊までちゃったのに。

丸岡 ；すみません。

小松 できましたよ。

丸岡 見せて。

小松、丸岡に絵を見せる。
へたくそな小学生みたいな絵。

小松 全然わかんないですよね。

丸岡は、だが、確信する。
丸岡、絵を小松から奪うように。

丸岡 ああああ。

小松 どうしたんですか。

丸岡 森尾さんですこれ。

小松 いやいやいやいや、わかんないでしょ。

丸岡 わかりますよ。ここと、ここの感じが。森尾さんとしか考えられない。

小松 いやわかんないですって。これじゃ。

丸岡 死なせてしまった。

小松 こんな絵で決めつけてショックを受けちやもつたいないですよ。

丸岡、「森尾」がいるらしい場所をじっと見る。

丸岡 つらい。

小松 だめです。つらいなんて言っちゃ。もっと辛い人がいるんですよ。

丸岡 はい…ですよね。

小松 とにかく一刻もはやくですね。

丸岡 はい。

小松 お祓いしたいんですけど。

丸岡 えはい。

小松 ご存じないですか。どこか。

丸岡 いやぁ知らないですね。

小松 そうですか。

丸岡 携帯で調べたらどうですか。

小松 ああですね。

小松、スマホでお祓いを調べ始める。

丸岡 自分のことばかり。

小松 え、ああ。すみません。でも。

丸岡 いえ、私も。いや私のがそうだって。

小松 え、ああ、ん？

丸岡 森尾さんだったら辛いなあって。でもいや森尾さんもっと辛かったんだろうに。

小松 わからないじゃないですか。

丸岡 それにその、希望退職をね。みんなにそれをするのが辛いであって、やっぱり思っ
てしまうんですよ。されるのがもつと辛いだろうに。とうか辛いのにすら気が付かな
いんでしょうね。私が上手にできればできるほど。そう思うともつと辛くなって。結局
辛い自分が辛いだけなのかなあと思うと、うーんなんだかやっぱ辛い。

小松 まま、とにかく、今は、まだ考えてもしようがないでしょ。あった。

丸岡 なんですか。

小松 これ、ほら。割と近くの神社ですよ。ああよかった。

丸岡 あるもんなんですよ。

小松 今日やってるって。いつでもいいみたいですよ。ほんと助かった。

丸岡 小松さんはすごいですよね。

小松 はい。

丸岡 メンタルが。

小松 そうですか。

丸岡 幽霊出ても、わりと平然と乗り越えてますよね。

小松 いやいやそんなことないですよ。

丸岡 そんな目にあっても耐えられるメンタルの強さにも給料払ってるんですよ。会
社は。

小松 しやれになってないですよ。いるですよ、そこに。…あれ。いない。

丸岡 え。

小松 ああつ！丸岡さん、こつち。

小松、慌ててその場を離れる。わけがわからずその場にとどまる丸岡。

丸岡 なんですか。

小松 そこです！そこ。

丸岡 え、はい。

小松 そこーっ！！

丸岡 （ようやく理解して）ええ！はいっ！

小松、その場を離れ、小松の元へ。

二人離れたところから、元のテーブルを、うかがう。

小松 今晚、もう一泊こつちで泊まることにします。

丸岡 そうなんですか。

小松 一緒に泊まってくれませんか。

丸岡 は？私ですか。

小松 部屋、ツインで取りますから。

丸岡 いやですよ。

小松 お願いしますよ。お祓いでうまく消えたとしても、やっぱ、一人で寝るのはね、ち

よっただけ、ちよっただけじゃないです。怖いです。

丸岡 だからお帰りになったら。

小松 一晩だけでいいですから。そこで、考えませんか。ビールと乾きものを買って飲みながらでいいじゃないですか。営業員のひとりひとりのことを。名前と営業成績と持っているスキルとか性格とかご家族の状況とかをね、並べて想像しながら、どうしたらいいか、一生懸命考えましょうよ。一緒に。私も。考えますよ。みんながハッピーないアイデアが生まれるかもしれませんよ。

丸岡 なら私も、並べてください。そこに。

小松 えあ、はいもちろん。

丸岡 私、転勤できないです。

小松 え。じゃ、それも含めて考えましょう。

丸岡 希望退職ですね、自分が受けようと思ってるんですよ。

小松 含めて考えましょう。

丸岡 母親の面倒みなきやいけないので。

小松 一緒に行ったらいいじゃないですか。

丸岡 年寄りですし。病気ですから。

小松 いやいやいやいや、なに言ってるんですか。

丸岡 それにね、やっぱり、自信ないです。辛いです。みんなにそんな。

小松 それはやりましょうよ。あなたの責任ですよ仕事ですよ。

丸岡 希望退職の仕事絶対に最後までまっとうできないです。ほんとうに申し訳ない。なんだか、ほんと無責任に一抜けたみたいになりますよね。でもやっぱり、小松さんみたいだね、沢山のね従業員の生活を背負ってね、考えたりは。今の私にはちよっとむつかしいんです。背負いきれない。営業所のたった6人ですら、もたないんですよ。

小松 それでもね、やんなきゃ会社がもたないんですよ。みんなの会社ですよ！

丸岡 はい。

小松 ああああ死んじやだめですよ。

丸岡 はい？

小松 丸岡さん死んじやだめですからね。

丸岡 大丈夫ですよ。

小松 死ぬんだったらやめましょ。死ぬんだったら。やめましょ。

丸岡 死にませんよ死にませんけど。

小松 今晩いますからね。私ここに。

丸岡 もういいでしょ。

小松 丸岡さんを支えるのも、私の仕事です。

丸岡 もういいですよそこまでやんなくて。

小松 いや当然のことです、あれ！

小松、窓際へ走る。外を見る。

小松 丸岡さん、見えますか。こっち。

丸岡 え。

丸岡も、小松のそばへ。

小松 あの人。ホテルの清掃員。

丸岡 はい。

小松 見えますか！

丸岡 はい。・・・森尾さんです！！

丸岡、森尾の元へ、出て行こうとする。

小松、制止する。

小松 見なかったことに。

丸岡 え。

小松 コンビニやめて。ここで働き始めたんじゃないですか。

丸岡 ・・・まさか。

小松 だって、あの、覚束ない所在無げな感じ。

丸岡 よかった…。

小松 そっとしておきませんか。

丸岡 じゃ、小松さんが見たのはなんだったんでしょう。

小松が、元のテーブル、幽霊の居場所を見る。

小松 あれ、いない。

丸岡 いやいや、いますよ。あちらに。

小松 いや、その、幽霊。

丸岡 え。

小松 営業所の廃止の・・・打ち合わせ、しましょうか。

丸岡 今からですか。帰られなくなりますよ。

小松 泊まりますから。

丸岡 もういいんじゃないですか。どうにもならないんですよ。

小松 丸岡さんのこと、解決してませんから。

丸岡 いいですよ。私のことは決めてますから。

小松 どうするのが丸岡さんにとって、一番いいのかをですね。

丸岡 酒饅。お子さん好きなんですよね。

小松 はい。

丸岡 それ、賞味期限がね、当日限りなんです。

小松 あ、そうなんですか。

丸岡 今日持って帰らないと。

小松 あれそうでしたっけ。

丸岡 これね、人気でちゃって、開店5時で早い日だと6時ころには売り切れちゃうんですよ。

小松 どうりで買えないはずですよ。

丸岡 グルメなお子さんですよ。

小松 いやまあですね。

丸岡 お父さんの大切な戦利品じゃないですか。

小松 え。

丸岡 こんな目にあってまで、勝ち取った戦利品じゃないですか

小松 いただきものですけど。

丸岡 持つて帰って自慢しましょうよ。お子さん、喜びますよ。

丸岡、小松に土産箱を渡す。

小松、受け取る。

小松 ありがとうございます。

小松、丸岡、窓の外を見て。

丸岡 暑そうですね。

小松 森尾さん、どうやったら、バレずに続けられるんでしょうか。

丸岡 ほんとですよ。

小松 とりあえず、それだけ、考えませんか。

丸岡 そうですね。

丸岡、森尾テーブルに着き、議論を始める。

小松 まずね、リスクを一通り洗い出しましょうか。

丸岡 はい。

小松 それで、リスクの大小と解決難易度別に分類してですね。

丸岡 帽子は深くかぶった方がいいですよ。

小松 それは解決方法なので今は関係ないです後でいいです。まずは、どんなリスクがあるかを一通り洗い出してから。

丸岡 すみません、はいはいはいはい。

小松 それでね、縦軸にリスクの大小横軸に解決難易度をマトリクスに整理して、右下に

来たものから優先的に解決方法を考える必要があるんですよ。

丸岡 あ、メガネ。メガネどうですか。

小松 だからそれも解決方法ですよ。

丸岡 あはい。

小松 もっとロジカルに状況を整理してから戦略と戦術を立てていただかないと。特に今回のように既に事象が発生している場合はよりスピード感のある的確な措置をとる必

要があつてですね…。

丸岡 白髪染めつてのは。黒ければ森尾さんとは。

小松 後です。それもまた解決方法ですよ。あなた私言つてることわかつてます？そんなんだからいつまでも地方の営業所の所長どまりで何年も何年も滞留するんですよ。

丸岡 すみません。

小松 …笑てます。

丸岡 はい。

小松 幽霊がね…笑てますよ。

二人、幽霊を見た。

ふと、椅子が一つ、ガタンと倒れる（なんらかの仕掛けが施されている）
二人、とても驚く。溶暗。

おわり。

上演にあたっての注意事項

（１）上演にあたっては著作者の承諾を得てください。

（著作者）南出謙吾

Mail minamidek@gmail.com

Twitter

（著作者）@minamidek

（２）上演料の目安は、チケット売上の３％としております。

例…３０００円×３０００人＝９０万×３％＝２万７千円

ただし、短編オムニバス公演等の場合は、上演作品の按分とします。

例…右事例で、３本だての１本としての場合は１／３で１％、９千円。

ただし、最小上演料金は５千円とし、オムニバス公演の際は上演作品数で按分とします。